

世界遺産暫定一覧表記載を目指す資産名称「近世城郭の天守群」の概要

#### ◆構成資産（シリアル資産）

松江城天守、松本城天守、犬山城天守、姫路城天守、彦根城天守

#### 【選定理由】

天守建築の始まりとしての安土城天守（1576年）から、発展の頂点としての寛永度江戸城天守（1637年）の間に築かれた天守のうち、現存する5城天守。

#### ◆OUV（顕著な普遍的価値）の骨子

天守とは、封建社会の日本における政治拠点であった城郭の中心部に、16世紀後半にはじめて出現し、その後、17世紀前半にかけて集中的に建設されることで意匠様式や構造形式の急速な発展を遂げた、大規模な木造の高層建築である。

5つの天守群で構成される資産は、16世紀末の群雄割拠から17世紀初頭の国内統一に至る、信長・秀吉・家康という日本の戦国三英傑を頂点とした一定の秩序の中で、城下町の繁栄と城主の権力、地位、財力を表現した創造的総合芸術の傑作であり、城郭内での木造の高層建築として、世界に例をみないビルディングタイプの物証である。戦国時代の終焉とともに訪れた長期安定政権の中で維持された、いわば戦乱と泰平の歴史の証左として、顕著な普遍的価値を有する。